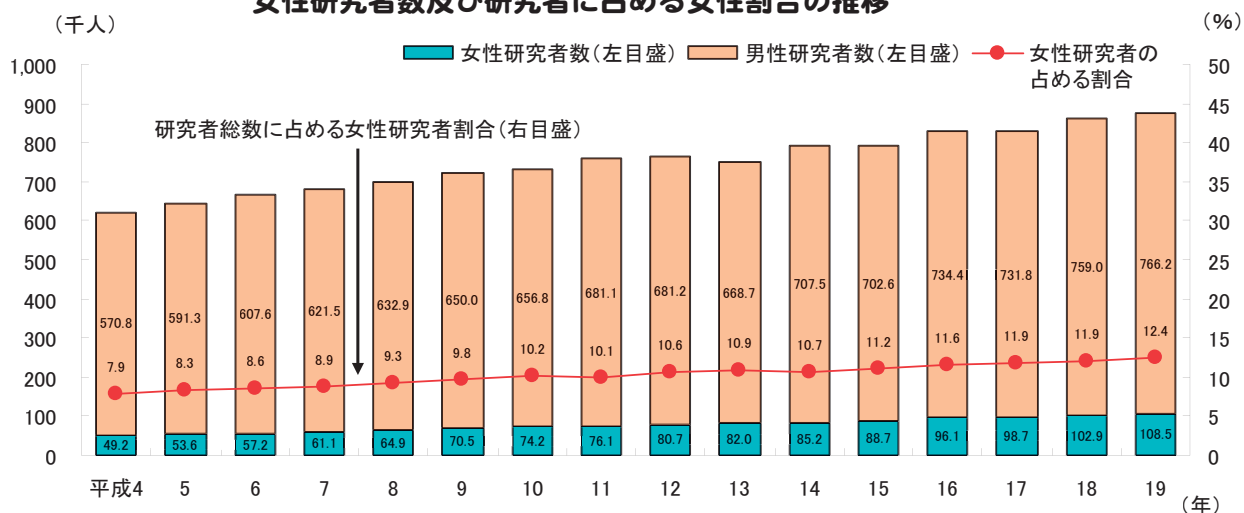


I 女性研究者をめぐる現状と支援策の進展

1. 女性研究者をめぐる現状 (女性研究者の割合)

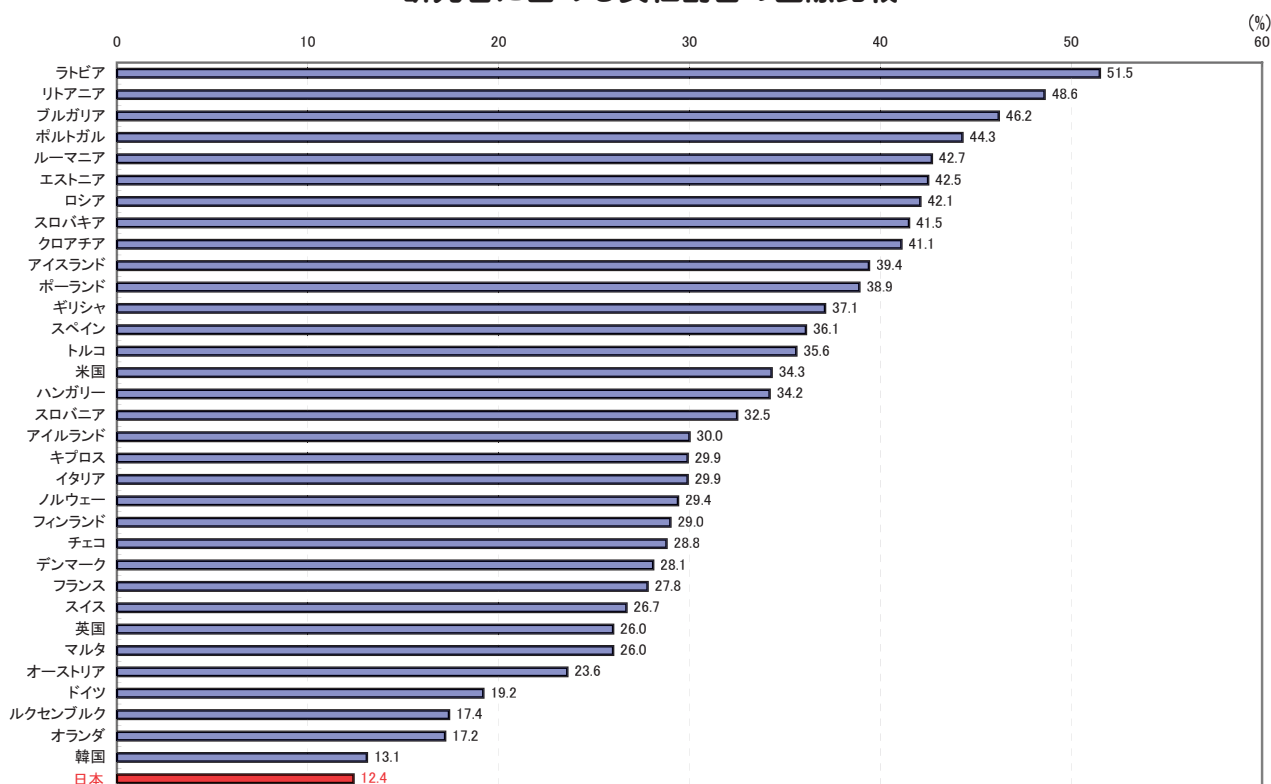
研究者に占める女性の割合は、緩やかに増加しつつある傾向にはあるが、欧米の国々と比べて、その割合は低い。

女性研究者数及び研究者に占める女性割合の推移



(備考) 総務省「科学技術研究調査報告」より作成。

研究者に占める女性割合の国際比較

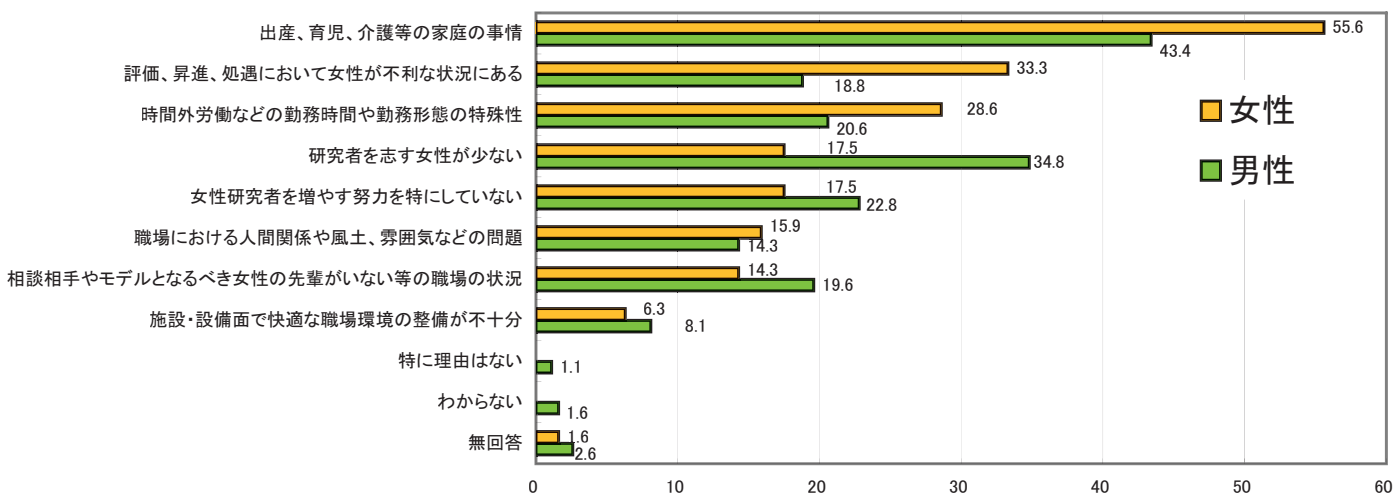


- EU諸国の値は、英国以外は、Eurostat2007/01に基づく。推定値、暫定値を含む。ラトビア、リトアニア、スロバキア、ハンガリー、チェコ、マルタは平成17年(2005年)、ポルトガル、アイスランド、ギリシャ、アイルランド、ノルウェー、デンマーク、ドイツ、ルクセンブルク、オランダは平成15年(2003年)、トルコは平成14年(2002年)、その他の国は平成16年(2004年)時点。英国の値は、European Commission "Key Figures 2002"に基づく(平成12年(2000年時点))。
- 韓国及びロシアの数値は、OECD "Main Science and Technology Indicators 2007/2"に基づく(2006年時点)。
- 日本の数値は、総務省「平成19年科学技術研究調査報告」に基づく(平成19年(2007年)3月時点)。
- 米国の数値は、国立科学財団(NSF)の「Science and Engineering Indicators 2006」に基づく雇用されている科学者(scientists)における女性割合(人文科学の一部及び社会科学を含む)。平成15年(2003年)時点の数値。技術者(engineers)を含んだ場合、全体に占める女性科学者・技術者割合は27.0%。

(女性研究者が少ない理由)

「出産、育児、介護等の家庭の事情」「評価、昇進、処遇において女性が不利な状況にある」、「時間外労働などの勤務時間や勤務形態の特殊性」、「研究者を志す女性が少ない」ことが上位の理由を占める。

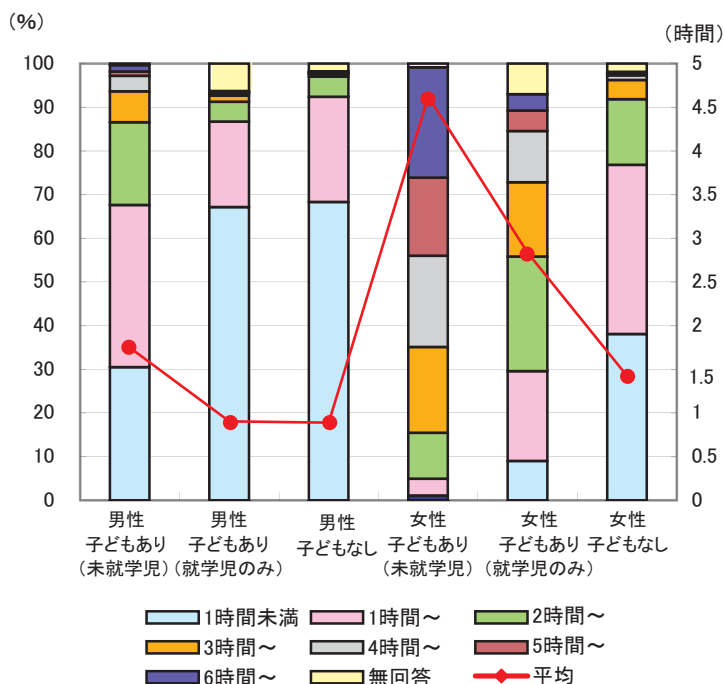
女性研究者が少ない理由



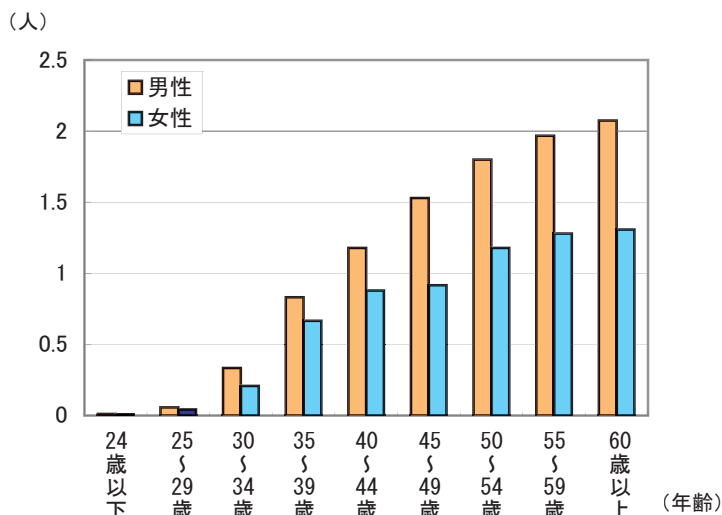
(備考) 文部科学省「我が国の研究活動の実態に関する調査報告」(平成17年度)より作成。

女性研究者は、男性研究者に比べて家事時間が長く、子供を持ちにくい。

研究者の家事・育児等時間



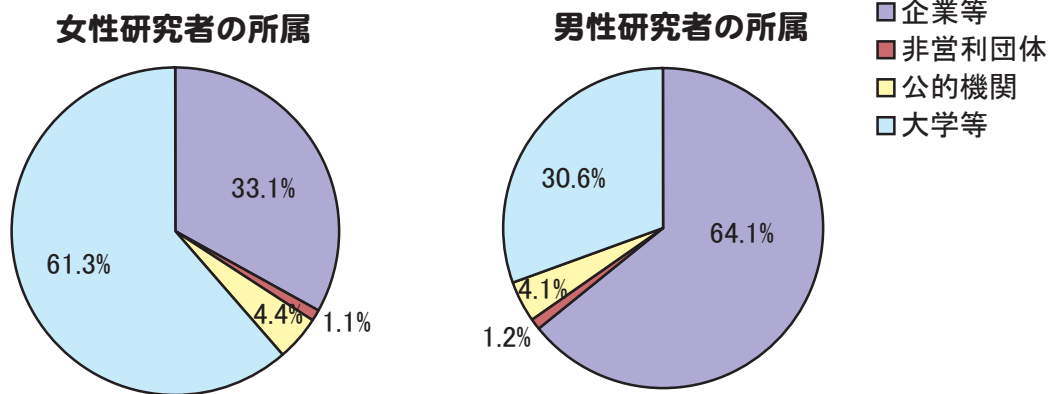
研究者の年齢別の子供の数



(備考)「男女共同参画学協会連絡会アンケート調査結果(平成19年度)より作成。」

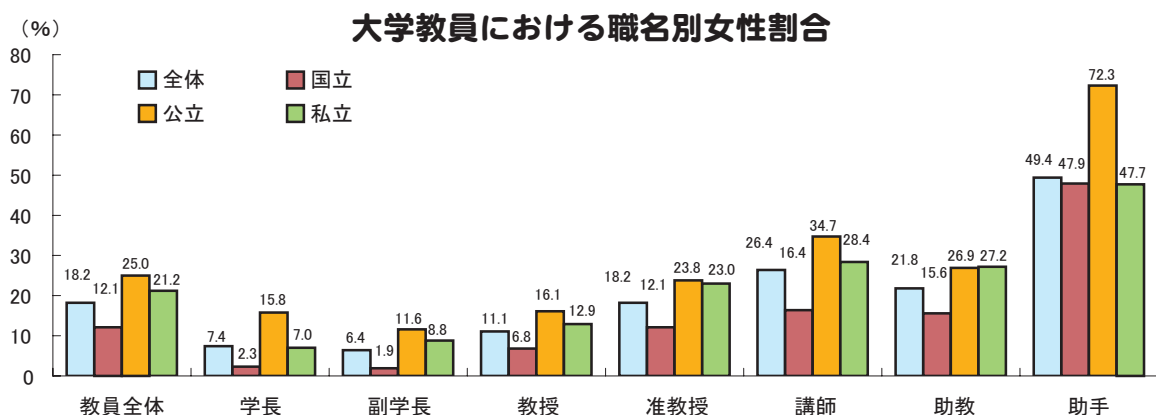
（女性研究者の所属・専攻分野・職位）

研究者の所属は男女で差があり、女性研究者は大学に多い。

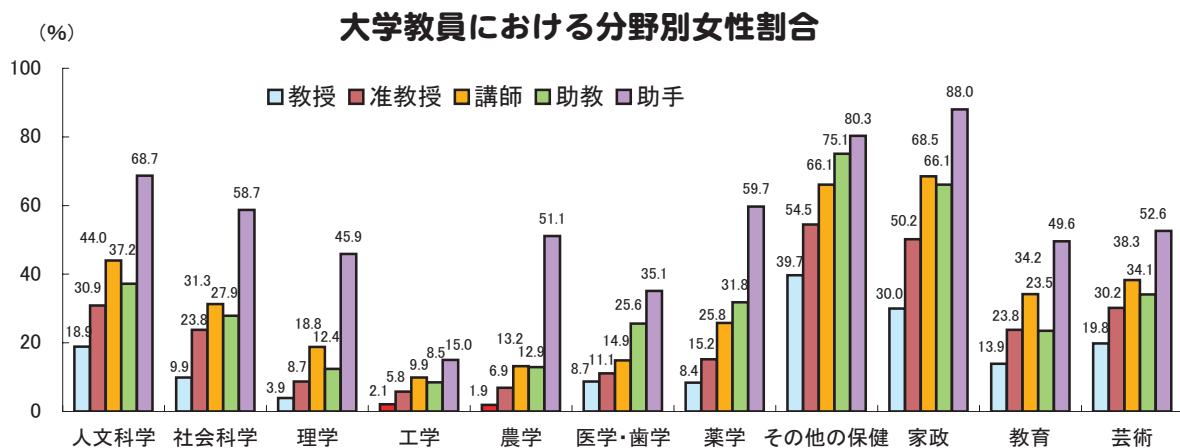


（備考）総務省「平成19年科学技術研究調査報告」より作成。

大学の教員全体に占める女性割合は、全体で18.2%、国立、公立及び私立大学で、それぞれ12.1%、25.0%、21.2%である。助手・助教から教授、学長など職位が上がるほど、女性教員の割合が減少する。分野別の教授割合は、理学・工学・農学の自然科学系で特に低いが、職位が上がるにつれて女性割合が減少する傾向は、各分野で共通している。



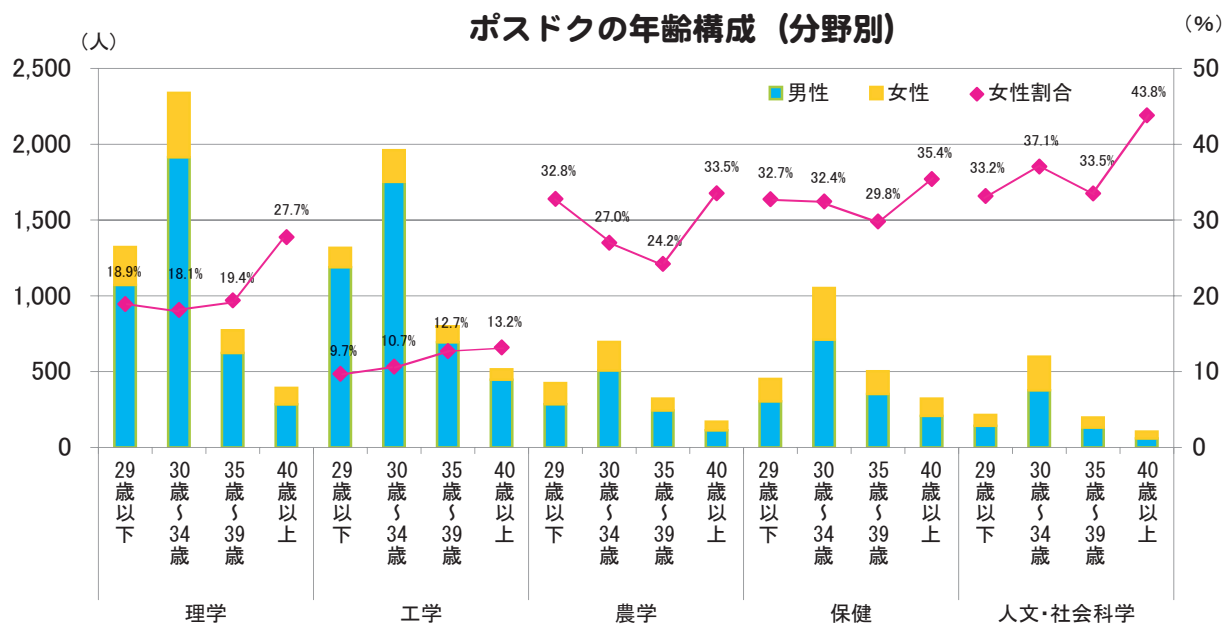
（備考）文部科学省「学校基本調査」(平成19年度)より作成。



（備考）文部科学省「学校基本調査」(平成19年度)より作成。

(ポストドクター等に占める女性割合)

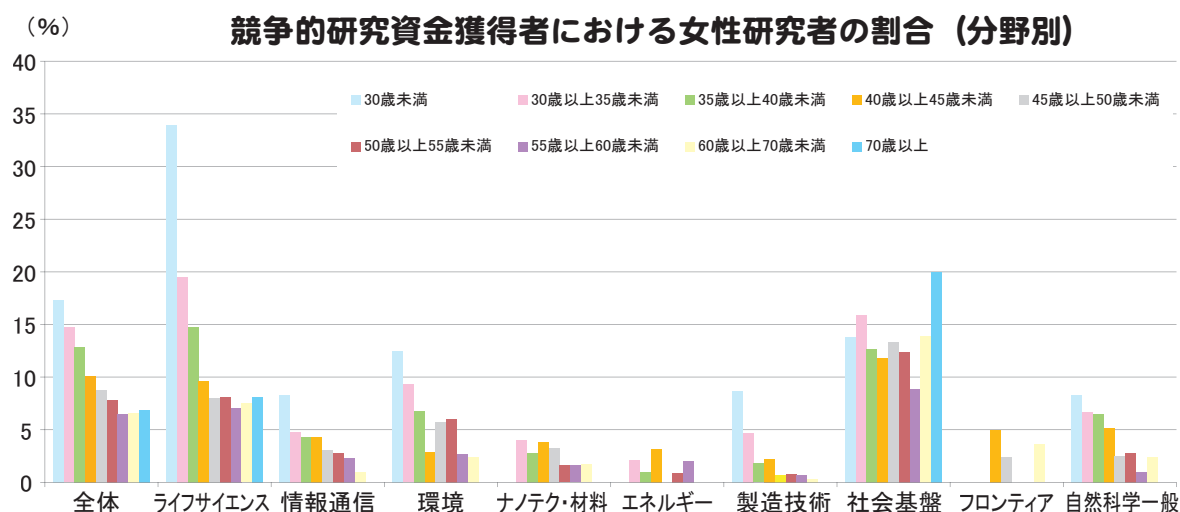
ポストドクター等に占める女性の割合は、40歳以上で高くなる傾向にある。



(備考) 文部科学省科学技術政策研究所「大学・公的研究機関等におけるポストドクター等の雇用状況調査(平成18年度調査)」より作成。

(政府の研究プロジェクトへの参加状況)

競争的研究資金獲得者における女性研究者の割合は、全体的に、年齢が高くなるほど減少する傾向がある。女性研究者が競争的資金を獲得する割合が10%未満の分野も多い。

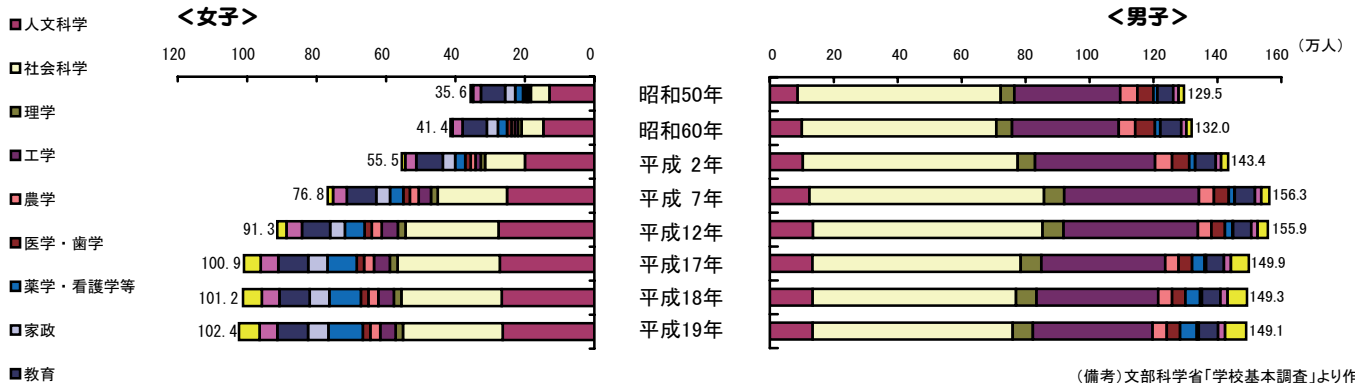


(備考) 内閣府研究開発データベースより作成。

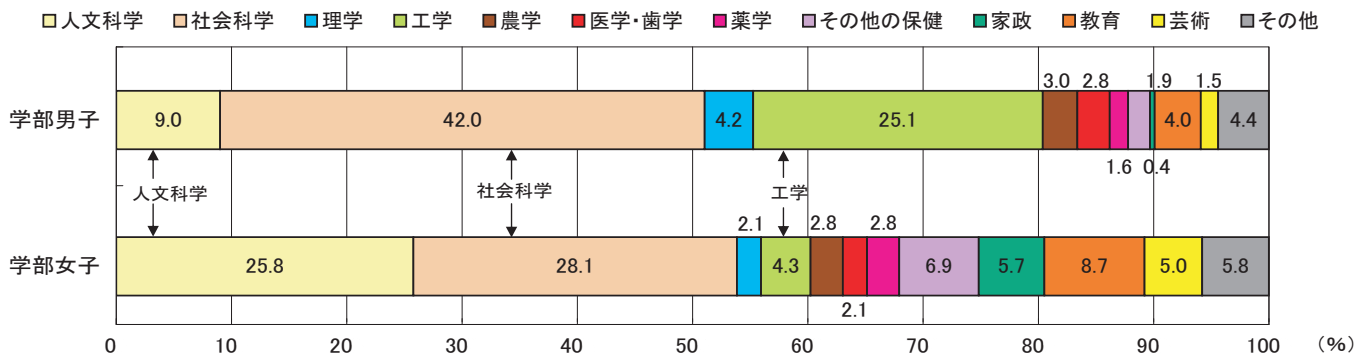
(高等教育における女子学生の割合と専攻分野)

大学学部における女子学生の割合は増えてきている。専攻分野として、女子は人文科学・社会科学を選択する割合が高い。人文科学・工学を選択する割合は男女で大きく異なる。

専攻分野別にみた学生数（大学学部）の推移

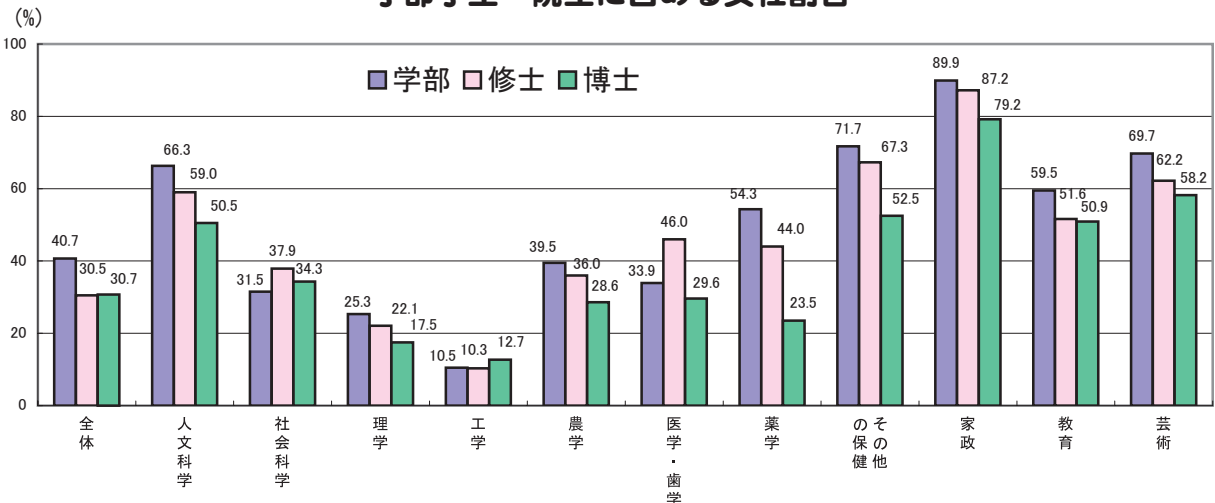


学部学生の専攻分野別割合

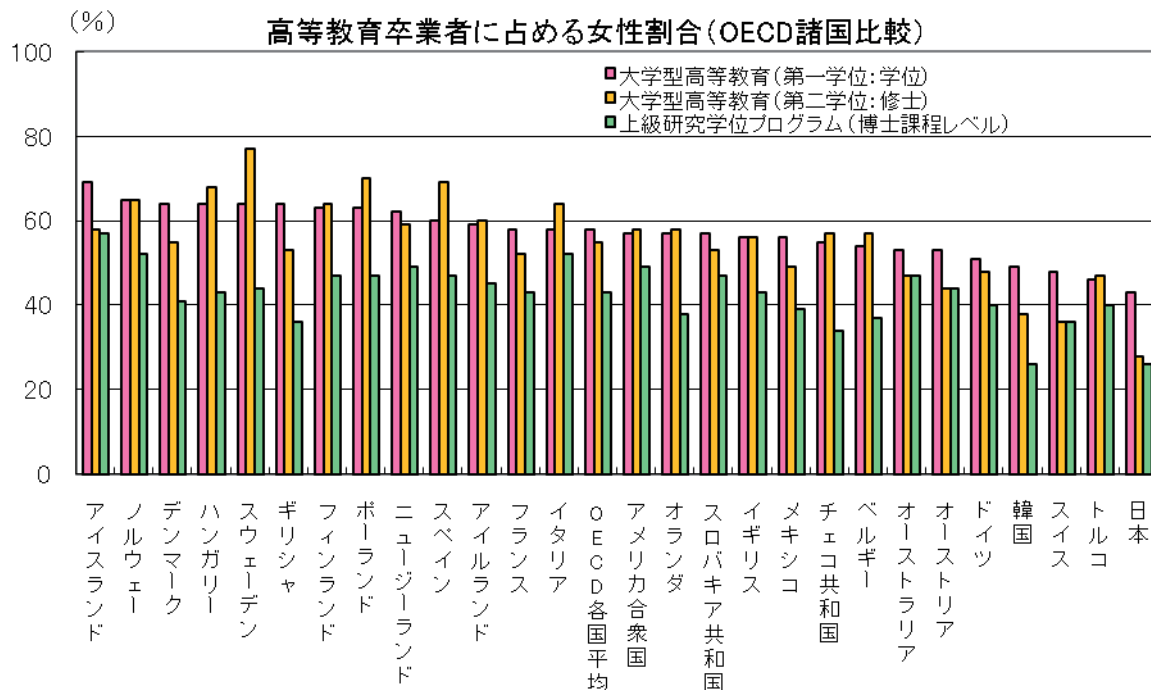


大学院における専攻分野について、家政・看護・芸術・人文科学で女子学生が多く、工学・理学で少ない。薬学では、博士課程で女子の割合が大幅に減少する。

学部学生・院生に占める女性割合



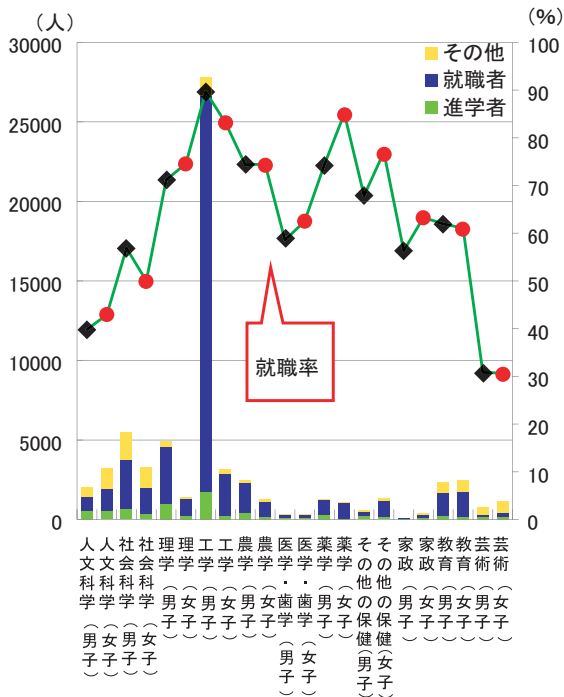
高等教育段階の女子学生の割合は、博士課程については30.7%であり、OECD平均43% (2005年)と比較して少ない。しかし、大学の学部では40.7%と増え、大学院（修士課程）では30.5%と横ばいではあるが、女性の研究者の比率が高くなる余地は十分ある。



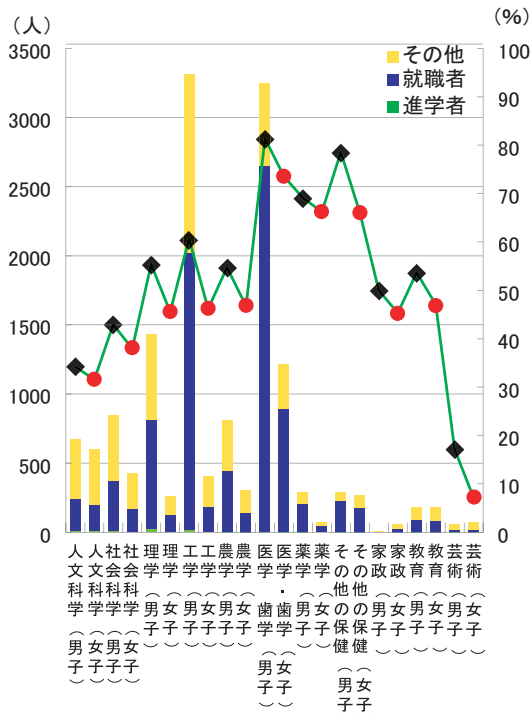
(備考)文部科学省「図表でみる教育 OECDインディケータ(2007年版)」より作成。

進路別卒業生数については、工学における修士課程・博士課程卒業生、医学・歯学における博士課程卒業生で、男子の数が女子を大きく上回る。博士課程卒業生では、女子の就職率が、分野共通的に男子より低くなる傾向がある。

修士課程卒業生の進路

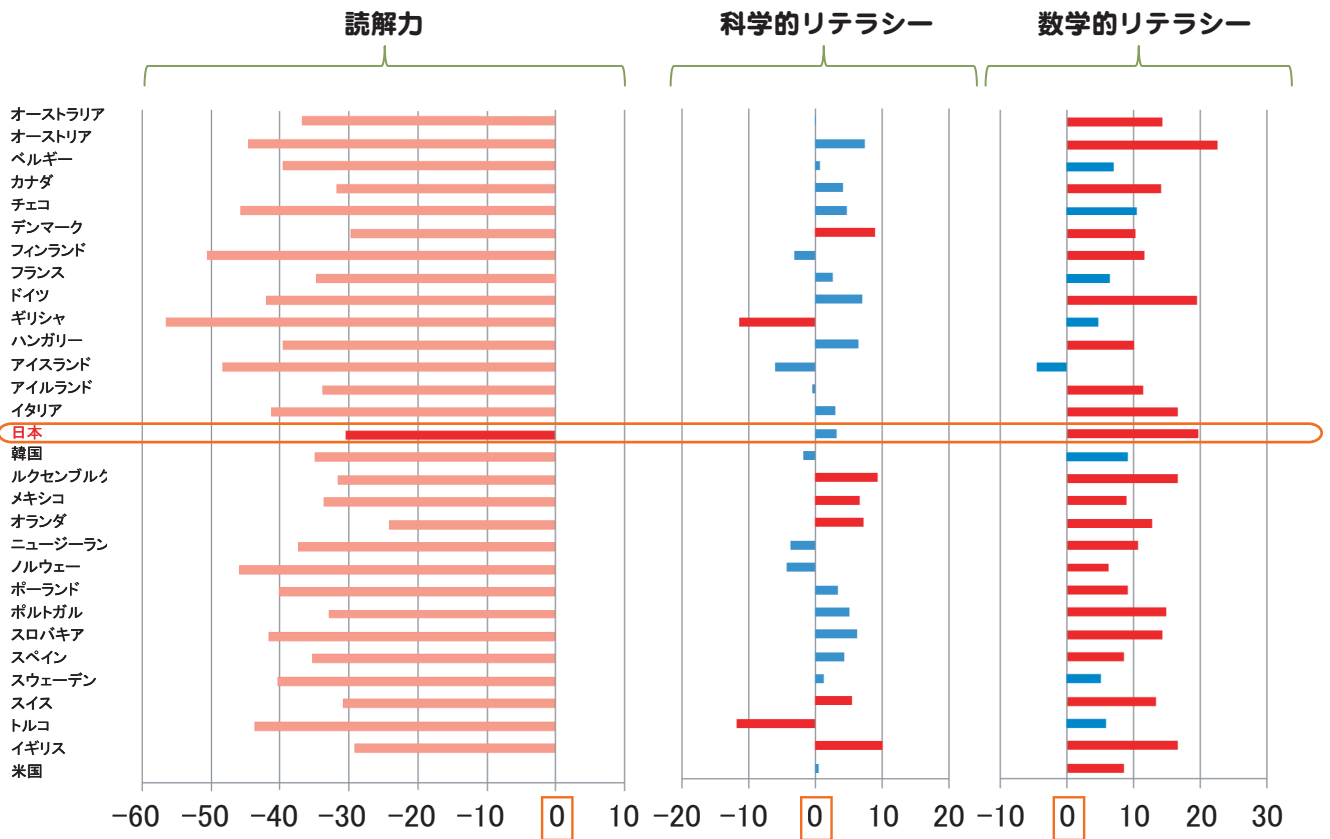
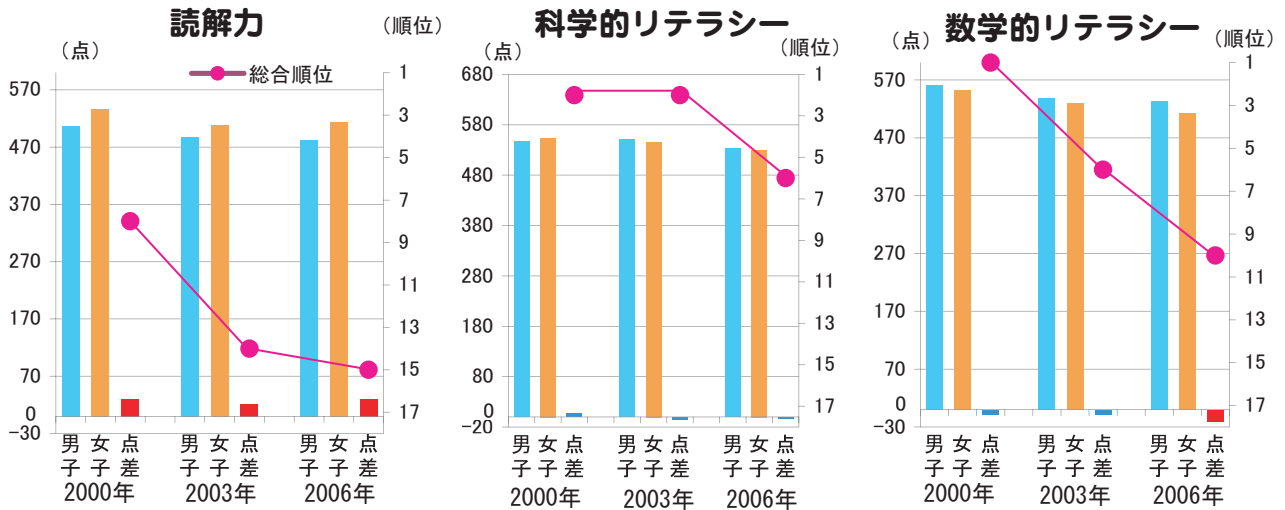


博士課程卒業生の進路



(OECD諸国における「生徒の学習到達度調査」(PISA) 結果)

高校1年生の学習到達度(PISA)調査における我が国の男子・女子の得点については、2000年及び2003年ともに、読解力で女子が優れ、数学的リテラシー及び科学的リテラシーにおいて男女に統計的な有意差はなかった。2006年度は、読解力と科学的リテラシーでは同様の結果が得られたが、数学的リテラシーにおいては、男子の得点が女子を統計的に有意な差で上回った。

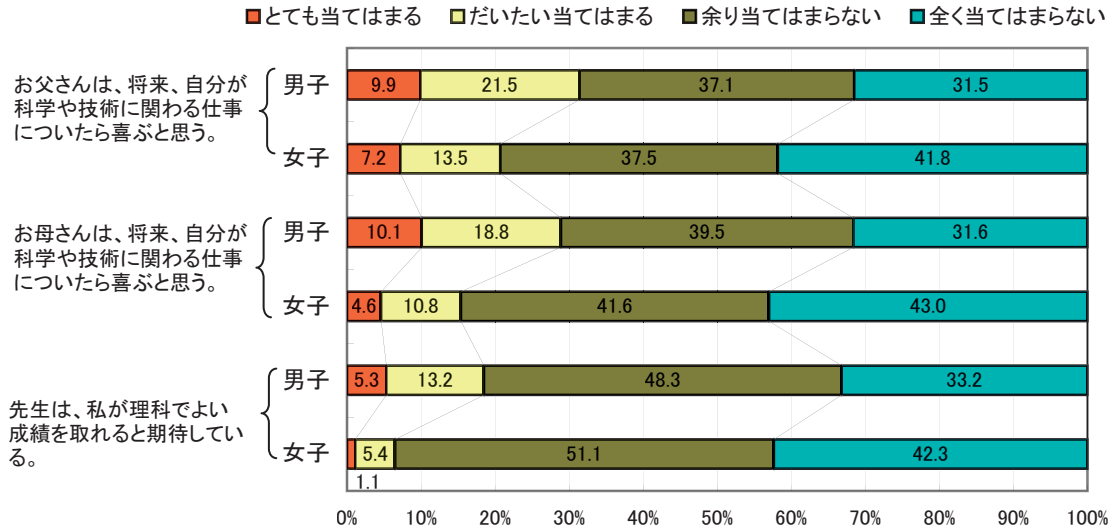


(備考) OECD PISA(2006年)調査結果より作成。グラフの数値は得点差。赤は得点に統計的な有意差があること、青は差が非有意であることを示す。国際的に、女子が読解力に統計的に有意に優れている。

（理科の学習に対する周囲の意識）

中学2年生においては、女子生徒の方が、父母が理系進路を選択することを喜ぶと思わない、良い成績を取れることを期待していないなどと感じる割合が男子生徒より多い。

中学2年生からみた理科の学習に対する周囲の意識

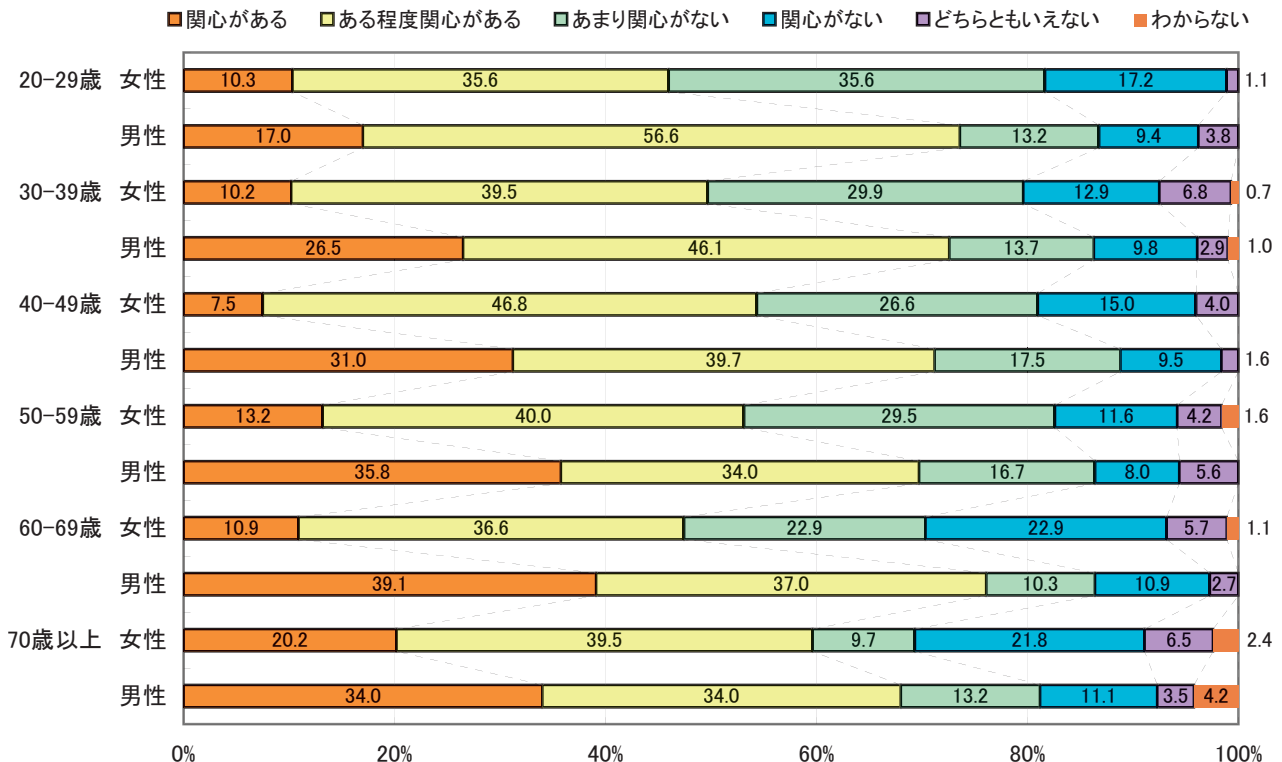


（備考）文部科学省科学研究費報告「学校教育におけるジェンダー・バイアスに関する研究（平成12～14年度）」より作成。

（科学技術への関心）

科学技術についてのニュースや話題への関心割合は、女性は5割弱から6割程度であり、男性の約7割に比較して低い傾向にある。

科学技術についてのニュースや話題への関心



（備考）内閣府「科学技術と社会に関する世論調査」（平成19年2月調査）より作成。

(高校生の職業意識)

高校2年生の将来の職業に関する意識調査結果においては、男子が技術系の職業を希望する職業として多く挙げている一方、女子では看護師、保育士・幼稚園教諭を希望する割合が高い。職業のジェンダー・イメージが職業選択に影響を与えている可能性がある。

高校生が希望する職業

男子 (n=494)			女子 (n=698)		
		%			%
1	製造・加工・組立などのモノづくり	12.3	1	看護師	10.9
2	公務員(国家・地方)	12.1	2	保育士・幼稚園教諭	8.0
3	技術者・研究者	7.7	3	教師	6.0
4	教師	7.1	4	事務	5.3
5	薬剤師	5.1	5	調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	5.0
6	整備士	4.7	6	公務員(国家・地方)	4.9
7	医師・歯科医師・獣医	3.8	7	社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	4.3
8	調理師・シェフ・パティシエ・フード関連	3.4	8	薬剤師	3.3
9	ゲーム関係	2.8	9	販売(ショップの店員など)	2.7
10	会社員	2.6	10	医師・歯科医師・獣医	2.4
	弁護士・法律関連	2.6			

保護者が希望する職業 (就いてほしい職業がある場合)

男子 (n=136)			女子 (n=187)		
		%			%
1	公務員(国家・地方)	36.0	1	公務員(国家・地方)	24.6
2	会社員	8.1	2	看護師	12.8
	技術者・研究者	8.1		薬剤師	10.2
4	医師・歯科医師・獣医	7.4	4	教師	7.0
5	教師	5.1	5	保育士・幼稚園教諭	5.9
	製造・加工・組立などのモノづくり	5.1		6	事務
7	薬剤師	3.7	7	技術者・研究者	4.3
8	社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	2.9	8	医師・歯科医師・獣医	3.7
9	弁護士・法律関連	2.2	9	社会福祉士・介護福祉士・福祉関係	3.2
	整備士	2.2		フライトアテンダント・グランドスタッフ	2.1
	看護師	2.2			

(備考) (社)全国高等学校PTA連合会、(株)「高校生と保護者の進路に関する意識調査」(2007)(平成20年3月)より作成。